

日本精神保健社会学会

平成 26 年 12 月 15 日

THE JAPAN ASSOCIATION OF
MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

＜日本学術会議学術研究団体 No.1001＞

ニュースレター第 53 号

事務局：栃木県宇都宮市豊郷台 1－1

帝京大学宇都宮キャンパス

滝澤武研究室内

TEL&FAX 028－627－7188

発行人：宗像恒次 編集人：上田敏子、窪田辰政

第 20 回日本精神保健社会学会学術大会を終えて

第 20 回学術大会実行委員長

静岡産業大学経営学部准教授 窪田辰政

2014 年 11 月 30 日筑波大学東京キャンパスにて、「あるがままの自分を見出す、見出せる社会」のメインテーマのもと、多くの方々の参加を頂き、大会を開催することができました。ここに改めてお礼申し上げます。今回は第 20 回記念大会でもあり、3 つの新しい試みを実施しました。1 つは、学会年報表紙に挿絵を加え、リニューアルしたこと、2 つ目に、学会奨励賞を設けたこと、3 つ目に、一般演題を口頭発表からポスター発表へと変更したことです。午前の一般演題では、福祉・医療・スポーツ・教育の分野から 13 題の研究発表が行われました。ポスター発表にしたことで、例年以上に演題数も増え、興味のある発表についてより深い議論が可能となり、活気ある時間となりました。



ポスター発表の様子

午後は、総会終了後、「あるがままの自分を見出す、見出せる社会」のテーマのもと、シンポジウムが行われました。本大会会長である宗像恒次氏によるミニレクチャーに続き、3 名のシンポジスト、池田和央氏（あのれんファーム代表、「ひきこもりとうつを体験し、それを乗り越えてきたサラリーマン人生」）、天方真帆氏（東京メンタルヘ

ルススクエア認定カウンセラー「『あるがままに生きる』うえでの葛藤と実践」)、原ミナ汰氏(NPO 法人共生社会をつくるセクシャル・マイノリティ支援全国ネットワーク代表、「レズビアン・コミュニティづくりとセクシャル・マイノリティの支援、そして性自認」)をお迎えし、基調講演を頂きました。その後、フロアとのフリーディスカッションを通して「あるがままに生きること、それを支援する共生社会をどうつくるか」について互いの考えを深めることができ、有益な時間となりました。

一般演題やシンポジウムを通して「あるがままの自分を見出す、見出せる社会」についての議論が活発に飛び交い、参加していただいた方々にとっても、有意義な大会になったと感じています。今後も、より活発な大会となるよう、運営委員会一同努めて参りますので、次年度以降もご参加をお待ちしております。

◇ 第2部シンポジウム「あるがままの自分を見出す、見出せる社会」報告 ◇



○池田氏

小さい頃から常に劣等感をもっていた。ひきこもりであったが、劣等感が嫌で仕事に打ち込んだ。その結果、仕事が認められ、初めて周囲から賞賛を受けた。今までそうした経験がなかったため、さらに食欲に仕事に打ち込み、過剰適応していった。その後、うつ病を患い、仕事ができない状態になり、ひきこもりになった。「頑張ってもだめじゃないか」と思う時期もあったが、「挫

折した人間にも人生に挑戦する資格はある」と一念発起し、農業に専念するようになった。つらいこともあるが、今は自分に誇りをもって毎日を送っている。周りの人々の食生活を守っているという誇り、自負がある。

○天方氏

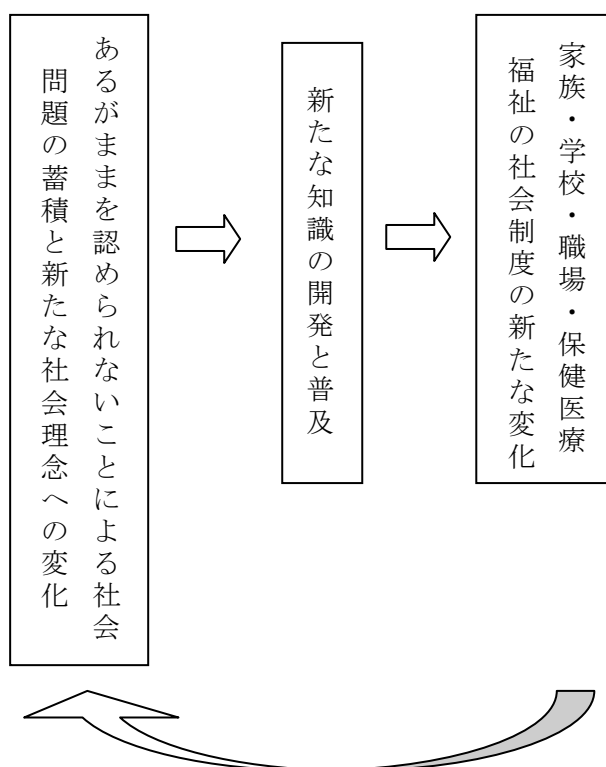
美術の教員として普通中学校や特別支援学校で美術教育に携わってきた。特別支援教育は自分の天職だと思っている。知的障害・精神障害をもつ子どもとふれあっていると、とても落ち着き、居心地がいい。現在、足腰の骨の障害により移動時は車いすを使うようになった。車イスになってからは、自分の状態をいかに相手に伝えるかを考えるようになった。特別支援学校では、自分の状態をすぐに理解してくれる子どもの存在がある。特別支援の仕事が続けたかったが、体のこともあるため、やむなく退職して今に至る。また、車イスダンスを通じてアートセラピー的な効果を実感している。

○原氏

幼少期から性自認に違和感をもっており、そのことを周囲に言うことができなかった。高校のとき、そのことを友人にカミングアウトしたが、周囲に全く理解されなかった経験がある。その後結婚し、子どもを産めば変わるかと思ったが、性に対する違和感は変わらなかった。子育てに専念するなか、この問題は自己完結した問題だと思っていた。しかし、娘の一言で自分だけの問題でないことに気づき、セクシャル・マイノリティの支援活動に取り組むようになった。現在は、「性指向・性自認に関する社会的共生促進法」の制定に向けて活動中である。

司会（宗像）：

たとえば、ミスをしやすい ADHD（Attention Deficit Hyperactivity：注意欠陥多動性）は、単なる気質であるにも関わらず、それがあがままに捉えられず、障害と社会的に受け取られている。ロボットはミスをしないように、ミスをしやすいとは新しい発想と学習をうみだしやすいクリエイティブな気質である。あるがままを支える社会を実現するための提案を下記に示す。



- ・ K 氏：日本は海外と比べて、自由に生きる風土がない。自分の中で自分のできるものを探していくこと、また一人ひとりの意識を変え、様々な価値を包含する社会、つまり人（社会の構成員）を育てていく必要がある。
- ・ OM 氏：今夏設立された「人を大切にする経営学会」という学会に参加した（参加企業 500 社）。こうした社会の動向から、経営者の意識の変化が伺える。そうしたなか、あるがままに生きる社会、また生命や安全を後世に残していくにはどうしたらいいかを検討することが重要ではないか。

- ・ M 氏：障がいと健常の狭間にいる人への支援が十分でない。
 - ・ SM 氏：「あるがままの自分を見出す社会」というフレーズは、あるがままの自分を見出すことをよしとすることを前提としている。しかし、あるがままではなく、自分を隠して生きてもいいのではないか。
 - ・ シンポジスト天方氏：性や障がいはスペクトラム（spectrum：連続体）である。しかしながら、日本には白黒はっきりさせた制度しかない。芸術教育のように、一人ひとりそれぞれ違っていいという意識が薄い。
 - ・ K 氏：3名のシンポジストの方々は、生きにくさを体験し、その現実に対面できている。また、自分と対面ができているのではないかという印象を受けた。
 - ・ A 氏：情報多過の時代において、小学3年～6年の間に、生きていてよかったという体験や刺激を受けられる機会をもつことが重要ではないか。
 - ・ OK 氏：あるがままに生きるために、次のステップへつながった手がかりとは？
- シンポジスト原氏：心のつかい棒を作ること。生きているものが好きであること。
- シンポジスト池田氏：不安が強く、それに抗ってきた。
- シンポジスト天方氏：生きることへの執着の強さ。生きることが妨げられたときの怒りがある。新奇性が強く、生きことをしたいと強く思う。

（文責：上田）

平成 26 年度学会奨励賞を受賞して

静岡産業大学経営学部准教授

窪田辰政



このたび、学会奨励賞を頂き、推薦して下さった方や選考委員の方、受賞を祝い、ともに喜んで下さった方々に心から感謝いたします。

学会設立当初から会員として籍を置き、当時は研究に自信を持てなかった私ですが、本学会での発表を重ねることで研究方法を身につけ、自信となったことを強く記憶しています。これまで本学会で積み上げてき

た経験や業績が、大学教員や博士号取得といった私の目標達成につながり、研究者としての礎を築かせてくれたことに、深く感謝しています。

今後は、この賞に恥じぬよう、自身の専門分野である「健康管理学」や「健康運動心理学」の観点から、人々の心身の健康増進に寄与する研究に努めて参ります。そして、本学会の更なる発展に貢献していきたいと考えております。

これからも、変わらぬご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

● ● 事務局移転のお知らせ ● ●

平成 26 年 12 月より、事務局が東京メンタルヘルスから帝京大学宇都宮キャンパスに移転になりました。なお、メールアドレスの変更はありません。お間違いのないようご注意ください。

《日本精神保健社会学会事務局》

〒320-8551

栃木県宇都宮市豊郷台 1-1 帝京大学宇都宮キャンパス 滝澤武研究室内

TEL & FAX 028-627-7188

E-mail info@jamhs.org

機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol.21」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しております。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしております。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック(専門校閲)を必ず受けるようにしてください。

●原稿締切：6月30日 厳守

●送付方法および送付先：

*郵送のみの受付となります。詳細は投稿規定をご確認ください。

〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台 1-1 帝京大学宇都宮キャンパス
滝澤武研究室内 日本精神保健社会学会事務局



山口 豊（東京情報大学総合情報学部心理・教育コース）

現在、私は東京情報大学総合情報学部心理・教育コースに所属し、主として「臨床心理学・ヘルスカウンセリング学・精神保健学」に関する研究・教育活動をしております。また、臨床活動として学生相談室カウンセラーを兼ねています。

所属する心理・教育コースについては、基礎・発達・臨床の心理系 3 部門と教育から構成され、私は臨床系教員として活動しています。まだ、スタートしたばかりのコースですので、ゼミ指導はこれからになります。平成 26 年前期は「産業社会カウンセリング」、後期は「臨床心理学概論」を担当しました。臨床心理学に関心を持ってもらえるわかりやすい授業を心がけています。研究内容は、今のところ修士課程時のテーマでもあった「臨床心理学的人間観の研究」、博士課程での「自傷行為調査研究」「各種心理療法介入研究」などです。今後は、新たな分野（依存系行動？）への調査・介入研究を考案中です。

学生相談室における活動としては、今年は週 2 日間（去年は週 3 日間）勤務しています。学生相談室ですので、相談内容は多岐にわたり、心の悩みから授業の履修の仕方・単位の取り方、部活動での葛藤、保護者からの不登校対策依頼など幅が広く、よろず相談的様相も呈しています。幸い、本相談室は私と非常勤の臨床心理士さんとの 2 人体制となっており、お互いクロスする日には、ピア SV をしております。そのことで、相談室活動が前に進んでいると感じています。ただ、大学教員による学生指導と学生相談室の守秘義務との関係、教員への学生支援コンサルテーション、他関連部署との連携等において、臨床心理学の共通言語が通用しない場面もあり、もどかしさも感じているところです。今後は、相談室の更なる心理学的構造化を進め、学生への心理支援機能の充実に寄与したいと考えています。本学会は、上記の私の研究・臨床活動について重要な示唆を与えてくれる場となっています。更なる学会員の皆さまのご支援をいただけますと幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

第 21 回ヘルスカウンセリング学会学術大会に参加して

山口桃香 1), 山本瑞希 1), 神田玲奈 1), 初見奈緒子 2), 窪田辰政 2)
(1)筑波大学, 2)静岡産業大学)

2014 年 9 月 20 日から 21 日の 2 日間、市川市文化会館において「第 21 回ヘルスカウンセリング学会学術大会」が開催された。本学会は「構造化連想法にもとづくヘルスカウンセリングの発展を図り、保健・医療・福祉・教育従事者をはじめ一般市民への普及を図り、健やかな家庭、学校、職場づくりを実現し、いきいきとした市民の育成に貢献する」ことを目的とする学術団体である。

今大会では「「あるがまま」を活かして生きる－蝕むストレス病から成長へ」というテーマのもとで、研究者や専門家による基調講演、シンポジウム、口頭・ポスター発表が行われた。大会の様子をここに報告する。

初日の特別講演では、Dr Anne M. Stevens 氏（ワシントン大学医学部准教授，シアトル小児病院）により「母子間マイクロキメリズム」(Maternal microchimerism)というテーマを日本語通訳付きで、また二日目の基調講演では宗像恒次氏（ヘルスカウンセリング学会長，筑波大学名誉教授）により「「あるがまま」を活かして生きる－脳科学からみた「あるがまま」の自己」というテーマでそれぞれご講演いただいた。さらに、「繰り返す問題と自己成長への軌跡」や「親子で見つけたあるがままの生き方」といったテーマでシンポジウムがなされた。いずれも参加者の感銘を呼ぶ素晴らしい発表となった。

筆者は窪田らと共に、初日のポスター発表にて「SAT 自己カウンセリングシートを導入した要約・発表能力育成の心理教育指導－体育・スポーツ系学生への新たな教育指導法の試み－」というタイトルで発表を行った。本研究は、体育・スポーツ系学生へ SAT 自己カウンセリングシートを用いた、要約・発表能力の向上を目的とする介入研究を行い、その結果を検証したものである。研究の結果、SAT 法を導入した教育プログラムは、文章の要約・発表に苦手意識をもつ学生に対して有益な教育法であることがわかった。本研究の発表では、写真撮影をする、あるいは拍手を送る参加者が多くみられ、約 30 件のポスター発表の中でも特に高い評価を得られた。また、従来の一般的な教育法とは異なり、生徒の心を重視したという点は国語教師をしている参加者にも支持された。参加者は、我々が多くの者に広めることを目標としている「SAT 自己カウンセリングシート」に興味を示しており、我々としても今後の研究への励みともなったため、今大会のポスター発表は成功したと言える。本研究の発表は座長の先生からも「ヘルスカウンセリングの新しい分野を開拓した」とお褒めの言葉をいただき、高く評価された。

本大会への参加は、「あるがまま」の自分を見出していく有効な方法として、自己成長によりストレスを力に変えていくことの重要性が再確認された。本大会は参加者も多く、盛会だったと言える。全体的に、本大会は意義のある大会であった。

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。

しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。

そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。

様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。

②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。

③国際的にも仲間づくりをすすめていく。

④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。

⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。

⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台1-1 帝京大学宇都宮キャンパス 滝澤武研究室内

日本精神保健社会学会事務局 TEL. 028-627-7188 FAX. 028-627-7188

入会金：5,000円

会費：通常会員 5,000円、学生会員 3,000円、賛助会員一口 10,000円（一口以上）、機関会員 20,000円

送金先：郵便振替 00170-6-613036 加入者名 日本精神保健社会学会

※ FAX、または郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男・女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属先・自宅 を希望する
所属先名 及び住所	〒 TEL. FAX.		
自宅住所	〒 TEL. FAX.		
所属系 (○印で)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・ 体育学・地理学・行政学・政治学・その他()		
関心領域			